

二党活動の概況

(1) 對鐘紡斗争

四月五日多年の温情主義を誇る鐘紡が「産業の合理化」と「金解禁」を名として突如賃銀の四割値下げを發表するや、我党は速早く声明書を發してニルと決定的の斗争を展開すべき事を表明したが、向蹊の争端が矢口民政党の府の政策と閉鎖するを以て党は林生委員長を先頭として支持団体の代表者を加へ吉田社会局長官、井上大蔵大臣、河田小川両次官を訪問して政府の所信をきき、その無能を糾弾した。續いて此の問題を中心に對鐘紡無産党共同斗争委員会を組織し、應援資金の募集をなすと共に本所公會堂に民衆大会を開催し、四月三十日を「アンチ鐘紡デー」となして街頭のピラ撒きを決定した。

此の日街頭に於て應援資金の公募をなす筈であつたが、警署視察から禁止がなされた。尚無産党の運動と連絡を執りつゝ労働組合は夫れ「所在の工場に働きかけ、兵庫工場に於ては十餘日のストライキとなり、隅田工場また動搖した。遂に従業員の蹶起を見るに至りなかつた。

(2) 東京市電斗争議

東京市電従業員を以て組織されてゐる東京支通労働組合・市電協同会東京市従業員組合は「賞與一割減 反對」以下七項目の要求を提げて

市当局に迫り再三再四交渉を重ねたが当局の態度は極めて強硬で着々組合叩きつぶしの策を講ずるに至つた。そこで東京支通労働組合も組合擁護のために蹶起し二十日未明より総罷業に入つた。

我党は四月十八日労働組合政治連絡委員会の決定に依つて本部より河野書記長望月、高山、皆川、高橋の各組合代表と共に市電当局に強硬に抗議し、四月二十一日本所公會堂に於て議会对策を兼ねて市電斗争議應援の演説会を開催した。尚ほ罷業の決行と共に労働党、社民党、東京無産党、全国民衆党と共に「市電斗争議無産党共同斗争委員会」を組織し、二十三日に上野自治会館、二十七日茅草公會堂に於て各党共同の應援演説会を開催した。然るにこの斗争議に於て我党所属黨員の罷業打切り行為があつたので端なくも問題を紛糾せしめたが二十三日に党本部は緊急常任中央執行委員会を招き政治連絡委員会の名に於て無関係なる旨を聲明し、当面の責任をたる伊藤、渡田両君も党の立場を救ふために自発的に党籍を脱した。東京市電共同斗争委員会は五月三十日「市電組合防衛無産党共同斗争委員会」が組織された。